

レビュー項目 (事業名)	HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクト③ 高校生留学促進事業・高校生チャレンジ留学応援事業				部(局)	総務部・産業労働部 教育委員会					
					所管課	教育課(総務部)・国際課(産業労働部) 高校教育課(教育委員会)					
					担当班	私学教育班・連携教育推進班 交流企画班 教育指導班(グローバル人材育成担当)					
					連絡先	078-362-3104(私学教育班) 078-362-3368(連携教育推進班) 078-362-3026(国際課) 078-362-9447(高校教育課)					
開始年度	令和6年度	終了年度	-	関連計画等	第4期教育振興計画(国計画)						
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業										
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	兵庫県					
事業目的	兵庫への誇りを礎に、探究心とチャレンジ精神をもって日本の未来を切り拓くグローバルリーダーとして活躍する人材を育成するために、学校や留学・交流を扱う団体等が主催する海外派遣プログラム等により海外留学に参加する生徒に対して、留学支援金を給付する。										
事業概要	ア 長期留学(原則1年間) 1人につき40万円(航空代金) イ 短期留学(原則10日以上1ヵ月未満) 1人につき6万円(航空代金) ウ はじめて留学(原則7日以上1ヵ月未満) 1人につき20万円(航空代金) ※所得要件あり エ (新)チャレンジ留学(約1ヶ月) 1人につき50万円 ※留学先で兵庫県の魅力を発信する活動を必ず実施 オ 留学フェア(留学体験者による発表、各国大使館や留学交流団体等による情報提供[7月実施予定])										
令和6年度 当初予算	47,128	千円	(国庫) 25,200	千円	(特定) 2,650	千円	(起債) 0	千円	(一般)	19,278	千円
評価 指標	指標名	5年度 見込	6年度 目標	7年度 目標	最終目標 【年度】	設定の考え方					
	成果指標(アウトカム指標①)					留学支援を通じてグローバル人材の将来的に確保するため、高校生の留学に関する意識調査を設定 【目標数値の考え方】 国立青年少年教育振興機構「高校生の留学に関する意識調査」において日本の高校生が海外留学に興味がある割合が5割程度であり現状(本県R5:43%)を改善するため設定 最終年度に50%を達成するために、平均年2~3%の達成率上昇を設定					
	将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う高校生(3年生)の割合	43%	45%	47%	50% 【R8】						
	成果指標(アウトカム指標②)					R15に第4期教育振興計画(国計画)で設定された目標(2033年までに4%[12万人])を達成するために必要と見込まれる人数を設定 【目標数値の考え方】 R15県内の高校生(推定※)約103,000人×4%=4,120人 ※文科省の調査を元に推定					
	県内の留学した生徒の数	2,470人	2,550人	2,750人	4,120人 【R15】						
	成果指標(アウトカム指標③)					段階的に支援者数を増やし、5年後に2年間で全ての県内高校(約200校)への支援機会提供を目標に設定					
	チャレンジ留学支援者数(単年度)	-	10名	20名	100名 【R10年度】						
	成果指標(アウトカム指標④)					段階的に応募者数を増やし、5年後に全ての県内高校(約200校)から1名ずつの応募があるよう目標を設定					
	チャレンジ留学応募者数(単年度)	-	20名	40名	200名 【R10年度】						
	活動指標(アウトプット指標①)					全県立学校(147校)及び全私立学校(51校)に対し、学校幹部等が集まる校長会等の会議において、事業の周知を実施する					
事業の周知を行う学校数	198校	198校	198校	198校 【R8】							
活動指標(アウトプット指標②)											
終期設定	有・ 無 (下記改善基準に基づき見直しを検討)										
改善基準	指標が目標に達した、または3年連続で下回った場合、見直しを図る。										
見直し結果	・評価指標については、適切に設定されている。 ・県立大学との連携や、留学支援を受けた人が卒業後に県内へ定着してもらえるような取組も必要ではないか。 ・今年留学を経験した人に、来年の留学フェアに来てもらい、次の世代に繋げてもらってはどうか。 ・留学した人が自分の母校で報告することが重要であり、在校生も身近な先輩の話を直接聞くことで、チャレンジする人も増えるのではないか。 ・例えば、グローバルリーダーの認定式を行うなど、履歴書に経験として記載ができるような事業設計にすることも重要。その後も定期的な会合や同窓会等を企画し、グローバルリーダーとの関係性を継続していくことが必要である。										
見直し結果	・評価指標については、当初設定のとおりとする。 ・本事業を活用して留学を経験した人を、次年度以降の留学フェアの講師候補とすることで次の世代に繋げることとした。 ・R6年度に留学した高校生には、母校等で留学報告するように案内し、R7年度以降の留学前の研修会や帰国後の報告会等にも参加してもらうことで、関係性を継続できるよう検討していく。										